

東京宣言

現在、我が国には、成人の6人に1人、約1620万人の糖尿病有病者またはその予備群がいるとされており、今後さらなる増加が予測される。

糖尿病は、初期には自覚症状がないことから受診が遅れることが多い。適切な治療を行わないまま糖尿病を放置すると、失明、人工透析など深刻な合併症を引き起こすだけでなく、心筋梗塞、脳梗塞など生命を脅かす疾患にもつながることが知られている。

東京都は、都民の生命と健康を守るため、糖尿病の予防を重点課題に位置づけ、糖尿病の早期発見・早期治療を目標として、普及啓発や環境づくりに取り組むとともに、地域における治療体制の整備を推進している。

昨年12月、国際連合は、糖尿病に対する意識を高めるため、毎年11月14日を国連「世界糖尿病デー」に指定することを決議した。

今、私は、東京都知事として、2007年11月14日の「世界糖尿病デー」に当たり、すべての都民に対し、糖尿病の正しい知識と生活習慣改善の必要性について普及啓発するとともに、適切な医療が提供される体制の構築に努めることを、ここに宣言する。

平成19年11月14日

東京都知事

石原慎太郎